茨木市立　東小学校　茨木っ子グローイングアップ計画

平成３０年１０月作成

1　３年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	自ら考え自己表現ができる 当たり前のことを当たり前にでき	・小中連携部会の継続開催。 ・連携コーディネーターによる小学校訪問・参観・授業の実施。 ・学校事務の共同実施。 ・小中連携担当者会から、専門的な支援教育部会の設置。 ・小から中へ継続した道徳授業の実施。 ・部活動での連携 ・中学校ブロック合同授業研を１回開催。 ・各学校で実施する校内授業研、参観等にお互いに参加し、交流する。	・小中連携部会の継続開催。 ・連携コーディネーターによる小学校訪問・参観・授業の実施。 ・学校事務の共同実施。 ・小中連携担当者会から、専門的な支援教育部会の設置。 ・小から中へ継続した道徳授業の実施。 ・部活動での連携 ・中学校ブロック合同授業研を１回開催。 ・各校で実施する校内授業研、参観にお互いに参加し、交流する。 ・外国語の授業内容の交流。	・小中連携部会の継続開催。 ・連携コーディネーターによる小学校訪問・参観・授業の実施。 ・学校事務の共同実施。 ・小中連携担当者会から、専門的な支援教育部会の設置。 ・小から中へ継続した道徳授業の実施。 ・部活動での連携 ・中学校ブロック合同授業研を１回開催。 ・各校で実施する校内授業研、参観にお互いに参加し、交流する。 ・外国語の授業内容の交流。
確かな学力の育成	自ら課題を解決する力の育成	・算数における習熟度別、分割、チーム・ティーチングによる一人ひとりを重視する授業形態と、問題解決型学習による子ども主体の授業 ・「わからないことをわからない」と伝えられる環境 ・放課後寺子屋学習教室、夏休み学習会の開設 ・学習サポーターによる支援 ・朝の読書タイム、算数タイム ・東小スタンダードの活用 ・家庭学習週間の設定 ・自主学習の奨励	・前年度の、算数における一人ひとりを重視する授業形態と子ども主体の授業を継承 ・わからないことをそのままにせず、解決していこうとする態度の育成 ・作文指導 ・放課後寺子屋学習教室、夏休み学習会の開設 ・学習サポーターによる支援 ・朝の読書タイム、算数タイム ・東小スタンダードの活用 ・家庭学習週間の設定 ・自主学習の奨励。	・前年度までの算数における一人ひとりを重視する授業形態と子ども主体の授業を継承と、他教科への発展 ・わからないことをそのままにせず、解決していこうとする態度の育成 ・作文指導 ・放課後寺子屋学習教室、夏休み学習会の開設 ・学習サポーターによる支援 ・朝の読書タイム、算数タイム ・東小スタンダードの活用 ・家庭学習週間の設定 ・自主学習の奨励
豊かな人間性を育む	命を大切にし多様な生き方を認める	・集団作り全体交流会 ・児童実態交流会 ・職員朝会で児童の交流 ・いじめ防止週間への取組み ・不登校対応研修会 ・人権作品への取り組み ・人権月間に向けての教職員による寸劇 ・道徳研究授業 ・あゆっこ学級理解教育 ・集団作り・支援と道徳・生活指導の２グループに分かれての研究	・集団作り全体交流会 ・児童実態交流会 ・職員朝会で児童の交流 ・いじめ防止週間への取組み ・特性のある子ども理解のための研修会 ・人権作品への取り組み ・特別の教科道徳の充実 ・あゆっこ学級理解教育 ・集団作り・支援と道徳・生活指導の２グループに分かれての研究	・集団作り全体交流会 ・児童実態交流会 ・職員朝会で児童の交流 ・いじめ防止週間への取組み ・東小の人権課題解決にむけた研修会 ・人権作品への取り組み ・特別の教科道徳の進化・充実 ・あゆっこ学級理解教育 ・集団作り・支援と道徳・生活指導の２グループに分かれての研究
健康・体力の増進	運動が好きという生徒の育成	・茨木っ子運動、ペアによる上体起こしと柔軟体操を必ず取り入れる。 ・低・中学年ではフォームロケット等で楽しみながら投げる種目に取り組み、高学年ではソフトボールやフラッグフットボール等の投げる運動を取り入れた授業を行う。 ・東小独自のカリキュラムにそった授業を行う。 ・校内体育部による体力向上を意識した運動の講習会を年２回程度行う。	・茨木っ子運動、ペアによる上体起こしと柔軟体操、ストレッチを必ず取り入れる。 ・握力等の筋力をつける運動 ・東小独自のカリキュラムにそった授業を行う。 ・校内体育部による体力向上を意識した運動の講習会を年２回程度行う。	・茨木っ子運動、ペアによる上体起こしと柔軟体操、ストレッチを必ず取り入れる。 ・握力等の筋力をつける運動 ・東小独自のカリキュラムにそった授業を行う。 ・校内体育部による体力向上を意識した運動の講習会を年２回程度行う。
支　援　教　育　の　充　実				

2 今年度の結果と取組みについて

（1）全国学力・学習状況調査

○●国語●○

国語A

（領域ごと）

①話すこと・聞くこと
やや課題が残る結果であった。

②書くこと
概ね良好な結果であった。

③読むこと
概ね良好な結果であった。

④言語事項
やや課題が残る結果であった。

（問題形式）

①選択式
概ね良好な結果であった。

②短答式
課題が残る結果であった。

③記述式
（出題なし）

（無解答率）
やや課題が残る結果であった。

（その他）

・もっとも正答率の高かった設問→6
・もっとも正答率の低かった設問→5
・もっとも無解答率の高かった設問→8オ
・もっとも無解答率の低かった設問→1、2、3、4

国語B

（領域ごと）

①話すこと・聞くこと
概ね良好な結果であった。

②書くこと
概ね良好な結果であった。

③読むこと
概ね良好な結果であった。

④言語事項
（出題なし）

（問題形式）

①選択式
概ね良好な結果であった。

②短答式
（出題なし）

③記述式
概ね良好な結果であった。

（無解答率）
概ね良好な結果であった。

（その他）

・もっとも正答率の高かった設問→1一
・もっとも正答率の低かった設問→2二
・もっとも無解答率の高かった設問→3二
・もっとも無解答率の低かった設問→1一、1二

分析

主として知識を問われるA問題については正答率が全国公立学校児童の平均・大阪府児童の平均を下回っているものが多い。一方、主として活用を問われるB問題については大阪府児童の平均を上回るものが多く、全国平均とくらべても上回っているものが多い。問題形式では選択式であっても無解答率が高いので、途中であきらめず最後まで問題に取り組む力をつけていく必要があると考える。特に学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題での無解答率が高く、普段から漢字を使うよう指導していくことが大切である。ただ、「読書は好きですか」という質問に対しては肯定的な回答をしている児童が多いことから、漢字に触れる機会も多いと考えられる。今後もたくさんの漢字の読み書きを大切にした授業を展開していくことで課題に向き合っていきたい。

○●算数●○

算数A
（領域ごと）
①数と計算
概ね良好な結果であった。

②量と測定
概ね良好な結果であった。

③図形
概ね良好な結果であった。

④数量関係
概ね良好な結果であった。

（問題形式）
①選択式
概ね良好な結果であった。

②短答式
概ね良好な結果であった。

③記述式
（出題なし）

（無解答率）
概ね良好な結果であった。

（その他）
・もっとも正答率の高かった設問→5(1)
・もっとも正答率の低かった設問→2
・もっとも無解答率の高かった設問→9
・もっとも無解答率の低かった設問
→2、3、4(1)、4(2)、5(1)、5(2)

算数B
（領域ごと）
①数と計算
概ね良好な結果であった。

②量と測定
概ね良好な結果であった。

③図形
概ね良好な結果であった。

④数量関係
概ね良好な結果であった。

（問題形式）
①選択式
概ね良好な結果であった。

②短答式
概ね良好な結果であった。

③記述式
概ね良好な結果であった。

（無解答率）
概ね良好な結果であった。

（その他）
・もっとも正答率の高かった設問→2(1)
・もっとも正答率の低かった設問→3(1)
・もっとも無解答率の高かった設問→3(1)
・もっとも無解答率の低かった設問→1(1)

分析

東小学校の６年生の児童は、全体として全国の平均とほぼ同じ正答率である。正答率が高い問題もあれば低い問題もある中で、低い問題には次のような傾向がある。図形に関する問題は算数Ａにおいても算数Ｂにおいても正答率が低くなっている。中でも空間認知に関わる問題の正答率が低かった。算数Ａにおける数と計算に関する問題では、正答率が低くなっている。小数を扱う１あたりに関する問題への理解が定着していなかった。算数Ａの後半４問、特に最後の２問の無解答率が高くなっているのは、時間が足りなくなって解答できなかったことも理由の１つとして考えられる。

算数に関する質問で「算数の勉強は好きか」という項目は、消極的肯定意見は全国平均と同等であるが、積極的肯定意見が全国平均より低い分、消極的否定意見が高くなっている。しかしながら、その他の質問における肯定的意見は全国平均とほぼ同等である。そのことから、算数に対して苦手意識は強いが、算数の必要性は感じて学習に取り組んでいると考えられる。また、「もっと簡単に解く方法がないか考えるか」と「公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしているか」という質問では積極的肯定意見が全国平均より１０ポイント程度低く、「問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いているか」という質問も１５ポイント程度低かった。苦手意識が強く、積極的に算数の学習活動に取り組もうとする姿勢が弱いと考えられる。

○●理科●○

（領域ごと）

① 物質　概ね良好な結果であった。

② エネルギー　概ね良好な結果であった。

③ 生命　概ね良好な結果であった。

④ 地球　概ね良好な結果であった。

（問題形式）

① 選択式　概ね良好な結果であった。

② 短答式　概ね良好な結果であった。

③ 記述式　概ね良好な結果であった。

（無解答率）　概ね良好な結果であった。

（その他）

・もっとも正答率の高かった設問→4(2)
・もっとも正答率の低かった設問→2(3)
・もっとも無解答率の高かった設問→1(3)、4(4)
・もっとも無解答率の低かった設問→1(1)、1(2)、1(4)、2(1)、2(2)、2(3)、2(4)、3(1)、3(3)、3(4)、4(1)、4(2)

分析

東小学校の６年生の児童は、ほぼ全国平均と同じ正答率であり大阪府の平均よりは高くなっている。正答数の分布は中央値寄りである。また、わずかではあるが、学習指導要領区分等の中のエネルギーの区分、評価の観点の中の科学的な思考・表現の区分において全国平均より低い。「食塩を水に溶かしたときの全体の重さを選ぶ」では、体積の増加により質量の変化もあるものと思い込んでの誤答が多く、正答率は全国平均より低かった。全体的に論理的な思考が苦手な傾向がある。

「理科の勉強が好きか」という質問は肯定的意見が全国平均を下回るが、「将来社会で役に立つか」という質問は全国平均と同等である。「自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てているか」という質問は肯定的意見が高いのに対し、「観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えているか」という質問は全国平均を１５ポイント下回っている。また、「課題に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたか」「自分の考えが伝わるように資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたか」という質問は全国平均を大きく下回っている。以上のことから、課題解決に向けて始めは意欲的・積極的に取り組むが、自ら考え行動する力、自身の考えや行動を振りかえる力は弱い傾向にあると考えられる。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

東小学校の６年生児童は、算数・理科については、全国平均とほぼ同じといえる。国語については、項目により全国平均を上回るものもあるが一方で、国語Ａの一部項目については、やや全国にくらべ下回るものがあった。資料等から自分の考えを述べる記述式を苦手とする傾向が見受けられる。また十分な解答時間が得られず無解答とした者が多かったことも要因に挙げられる。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

ここ数年エンパワー層について減少傾向であったが、本年度は一転増加した。国語Ａで「話すこと・聞くこと」と問題形式の短答式の設問で全国との正答率の差が大きかったことや、無解答率が国語Ａでは著しかったことが要因と思われる。

算数、理科については、概ね良好な結果であった。

この学力テストでの質問事項にあった十分な時間がなかったとの意見も多く、全体を見通して問題を時間内に解く処理能力の不足もあったと考えられる。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

本校では、子どもどうしがつながる場をつくることで、子ども主体の授業づくりを進めている。「問題解決学習」を展開することで見通しを立て、自力解決し、考えを発表し交流することで考えを広め、深めてきた。算数を中心に上記の「問題解決学習」を定着させ、習熟度別授業、放課後寺子屋学習など少人数での学習により、「分かる授業・指導」を重視してきた。その成果もあり、算数への苦手意識の減少や算数の有用性などを肯定的に受け止めるようなってきた。

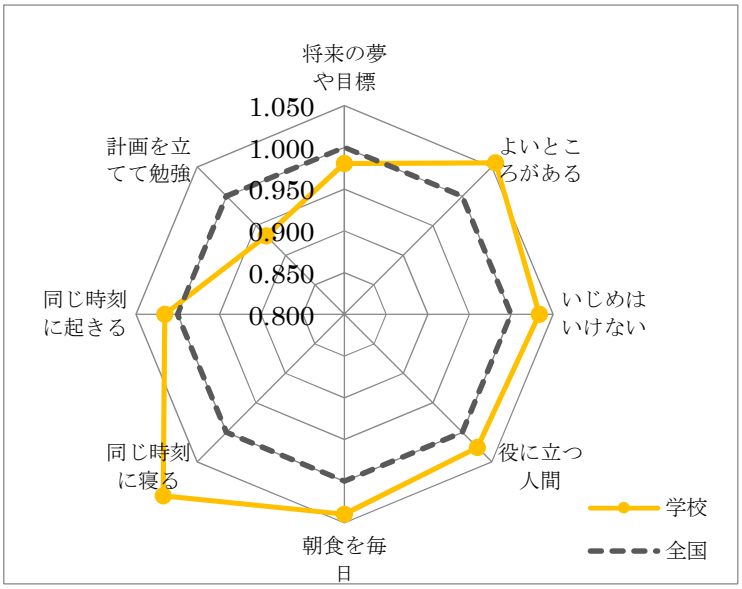
今年度より、子どもたちの「読む力」を養うために「読み取る力を育てる～物語教材を通して～」と国語の研究に取り組んでいる。６年については、本文からキーセンテンスやキーワードをひろい、要約する力を身につけるなどを重視して取り組んでいる。また、学力テストでも記述式での無解答が目立つように、自分の考えを言葉で表現することを苦手とする。そこで、昨年度より作文指導に力を入れ、教師の添削等により書く意欲を高められよう進めている。また、国語科に限らず授業の中で、ペア学習、グループ学習を活動に入れ、自分の考えを「相手に伝える力」コミュニケーション能力を身に着けることへの手立てを積極的に行ってきた。その成果もあり、グループ学習など少人数の場では、理由をつけて自分の考えを述べるなどできるようになった。

本校では、個に合った指導をすべく、算数での学習支援サポーターの活用や放課後寺子屋教室で個別の指導にも力を入れている。基礎学力の重視、苦手意識の軽減を目指している。『家庭学習週間』を設定し、宿題のチェックや自主学習の習慣化をめあてに家庭と学校で連携を諮っている。年度初めに「学習の手引き」を低中高学年で配布し自主学習の用例（漢字練習や計算の反復練習、意味調べ、興味・関心あるテーマを設定し、図書やインターネット使っての調べ学習など）を提示することで、宿題から自主学習へスムーズに移行させながら取り組めるようにしている。

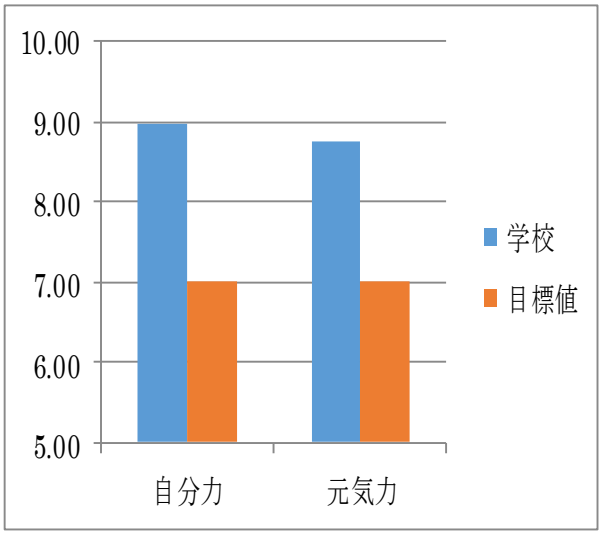
パソコンやスマートフォンの普及から家庭での自由時間を「インターネットの閲覧」や「ゲーム」などに費やす傾向がある。本離れをする子もいるが、地域のキッズサポーター（読書タイムでの読み聞かせ）の協力を得ながら、毎週読書タイムを行ってきており、読み聞かせ等読書タイムを楽しみにしている子も多い。インターネットからの情報収集が広まり、新聞を読まない、読書を進んでしないなどの傾向がみられるが、読書週間には、「○○先生のおススメの一冊」など読書への興味関心を高めるよう働きかけている。

○●子どもたちに育みたい力●○

５つの力　全国平均との比較



５つの力　目標値との比較



今年度は質問紙項目が大幅に変更になっただため、５つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。
そのため、全国平均との比較(レーダーチャート)は８項目、目標値との比較(棒グラフ)は、３項目とも実施した『自分力』と元気力』のみとなっています。

分析

分析質問紙の回答結果から、東小学校６年生の児童は、「学習は大切だと思っている」子どもが多く授業に意欲的に取り組んでいる。教科で見ると算数、理科と共に好きだと答えた子どもも消極的肯定意見も含めると半数を超える。日常生活での算数の有用性には関心があるものの、理科での日常生活における有用性への関心は低い。算数、理科共に消極的肯定意見も入れると将来に役立つと考えている子が多い。算数では、考えに理由をつけて述べることや理科の観察・実験には意欲をもって取り組んでいる。学習への意欲・関心はあるので、それらを日常生活または、将来へ役立てるよう自分の考えを発信したり（プレゼンテーション能力）学習をふりかえったりする活動を重視していく必要がある。

起床、朝食の摂取、就寝時間などの生活リズムは規則正しく送っている割合は平均より高い。家庭学習での予習・復習などの定着は半数に留まっている。地域への関心は高く、地域行事への参加も半数のぼる。

ニュースへの関心は見られるものの新聞から情報から得る子どもは、１割にも満たない。スマートフォンやインターネットからの情報収集がほとんどである。

取組み

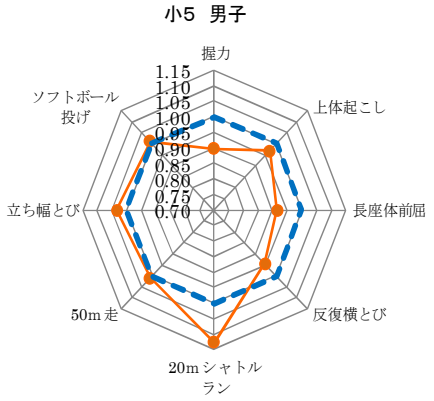
インターネットの活用やスマートフォンの普及により、小学生の文字離れが推測される。本校では、毎週水曜日の読書タイムや読書週間、大型紙芝居など読書への啓発を行ってきている。近年、「読書が好き」の項目が他の項目に比べ伸び悩んでいるが、全国平均は常に上回っている。上記の学校を上げての読書への啓発を継続しつつ、日々の授業等で積極的な図書の活用を検討していきたい。放課後、友だちと過ごす子どもは多い。そこにゲームやネットが関わっており、パソコンやスマートフォンの使用方法・時間などメディアリテラシーについて話し合う必要性があると考えられる。

「自分にはよいところがある」など自分力への項目に肯定的に答えている子どもは９割を超えている。将来や目標についても前向きな子が多い。自己有用感をはぐくみ、ペア学習、グループ学習などで相手のいいところをみつけ相手の立場を尊重し合い共に育つといった集団作りを行っている。集団作りでは「規律・協調」を大事にして、フェスティバルや宿泊行事などに取り組んでいる。

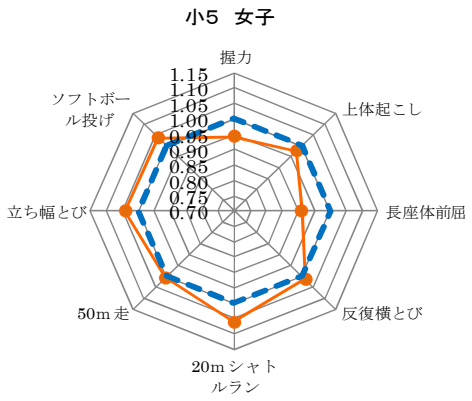
（2）全国体力・運動能力、生活習慣調査

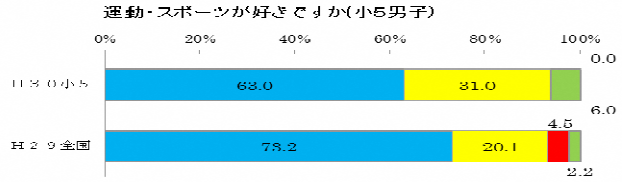
○●体力●○

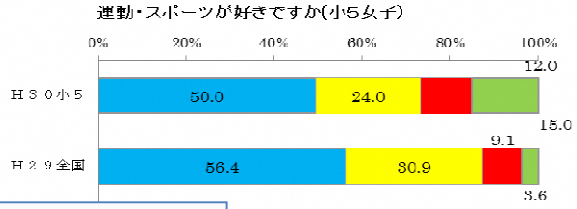
男子（小5）



女子（小5）







好き　やや好き　ややきらい　きらい

分析

本校の小学校５年生の結果を分析すると、男女ともに 20mシャトルラン・立ち幅跳び・ソフトボール投げにおいて全国平均を上回っている。特に 20mシャトルランでは全国平均を大きく上回っており、これは冬場を中心に行っている持久力を意識した体力づくりの結果である。また、ここ数年学校の課題として取り組んでいるソフトボール投げが、男女ともに全国平均を上回っていることもこれまでの取り組みの成果だと考える。

一方、男女ともに、握力・長座体前屈・上体起こしは全国平均を下回る結果となっている。長座体前屈・ソフトボール投げが数年来全国平均を下回っていたことを受けて、数値の向上を目指し、柔軟性を高める準備運動と投げる運動について取り組みを進めてきた。ソフトボール投げは取り組んできた成果が表れてきているが、長座体前屈は数値での成果が見られない。数年取り組んできた柔軟性を高める取り組みについて見直す必要がある。また、ここ数年握力の数値が芳しくなく、これは他の学年においても同様である。今後は握力と長座体前屈に重点的に取り組み、学校全体の力としてつけていきたい。

取組み

現在、継続して取り組んでいる茨木っ子運動Ⅱは今後も全学年で統一してやり続けていく。

また、ラダーやミニハードルを使ったウォーミングアップも校内研修を行うことで多くの担任が取り入れており、今後も全担任が実施できるように環境整備を行っていく。

今後の取組みとしては、新体力テストの結果を踏まえ以下の取組み（昨年度から継続するもの、新たなもの）を昨年に引き続き進めていくこととする。

①準備運動（茨木っ子運動→柔軟性向上メニュー）を取り入れる。
②ラダーやミニハードル、遊具を使ってのサーキットメニュー（握力向上）等を授業初めに行う。
③低～高学年までの系統立てたカリキュラムを作成し、それにそった授業を行う。
④校内体育部による体力向上を意識した運動の講習会（公開授業を含む）を年に２回程度行う。
⑤体力テストのポイントと測定の仕方の校内研修会を行う。